

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870104381
法人名	株式会社 ヨシケンコーポレーション
事業所名	グループホームいしい
所在地	〒791-1105 愛媛県松山市北井門3丁目14番28号
自己評価作成日	平成26年9月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 26 年 10 月 29 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

基本的には、日々の生活を大事にします。天候の良い日に、お買い物、散歩など、その方に合わせて外出もします。入浴は、ヨモギ湯、大根湯、菖蒲湯、など季節に応じた、お湯も楽しめます。知的障害者の就労支援施設と3か月に1回、託児所と2か月に1回、夕涼み会などのホームの行事に地域の方を呼び交流を行い、盆踊り大会、運動会など地域の行事の参加も行っています。園芸療法は、その方の昔から慣れ親しんだ野菜や植物を中心とした園芸を行い、計画、種まきから始まり、花や野菜の苗の植え付け、収穫物の調理などを一緒に行います。音楽療法は、音楽療法士と相談しながら、その方の好きな季節の歌や思い出の曲を歌いながらの運動を取り入れています。芸術の導入は、認知症により損傷した脳に、刺激を与えて進行を予防するのではなく、その方の意欲、気持ち、残存機能に、生活歴、趣味を勘案しながら働きかける事を大切にしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所では「ご本人のことを大切にされたケア(パーソン・センタード・ケア)」を大切に、職員全員で模索しながら考えるケアに取り組んでいる。事業所のパンフレットは職員間で話し合い、利用者や家族の視点に立って見やすく楽しめるものを作成している。会社の経営理念と介護保険理念に沿った事業所独自の理念も、職員間で話し合いながら数回変更しており、職員の行動指針と併せて理念を大切に考え実践している。職員一人ひとりが利用者本位のサービスが提供できるよう、お互いに原点に立ち返りながらケアに取り組めるように、「接遇カンファレンス、即日カンファレンス」という事業所独自の時間を設定し、ケアの質の向上に努めている。また、事業所は開設して10年を経過し地域との絆も深まってきており、複数の医療機関と往診や緊急時の協力体制を築き、利用者は安心して生活することができる。また、地域の「認知症の専門家」として、徘徊模擬訓練等に参加協力し助言をするなど、地域社会の貢献に繋がっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホームいしい

(ユニット名) 1階ユニット

記入者(管理者)
氏名 小椋 真吾

評価完了日 平成26年9月30日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 職員会議や勉強会にて職員の意識を確認し会社、事業所の理念に基づき実践できるように取り組んでいる。定期的に、人事考査にて個々の考える具体的理念や目標を言ってもらい、共有・共感を行ない質の向上に取り組んでいる。地域活動に参加し地域の方にも事業所の理念を知っていただけるよう交流を深めている。</p> <p>(外部評価) 会社の経営理念と介護保険理念に沿った事業所独自の理念を作成しており、職員間で話し合いを繰り返しながら数回変更し、現在分かりやすいものとなっている。また、職員の行動指針を作成しており、理念と併せて振り返りながら実践している。また、新人研修で理念を説明している。職員はケアで悩むことがある場合は理念に立ち返り考えている。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) ホームの行事（防災訓練、そうめん流し、夕涼み等）に参加して頂いたり、町内の行事（地域の清掃行事や運動会、盆踊り等）に参加し、地域の方々との交流を大切にしている。ボランティアも呼びかけ、入居者様との会話等で交流している。プチ美化の日を設け近所への散歩時はゴミ拾いをおこなえるよう努めている。</p> <p>(外部評価) 運動会や防災訓練などの地域行事に参加したり、事業所で開催する夕涼み会やそうめん流しなどに地域の協力があるなど、相互の交流が盛んに行なわれている。事業所で地域住民が参加できる催し物を開催する場合は、高校生の実習生やボランティアに声をかけたり、散歩時に利用者と一緒にチラシを配布し、多くの参加者が集まりやすいよう工夫している。託児所の幼児や近隣の楽器店の音楽療法士等の訪問を利用者は楽しみにしている。また、自治会などで行う徘徊模擬訓練には、「認知症の専門家」として助言することもあり、地域社会への貢献に繋がっている。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) そうめん流し、夕涼み会など地域の方々を招待し、一緒に食事やお話をして頂くことにより、認知症の理解や支援をしてもらっている。運営推進会議などで認知症の説明や入居者様が徘徊され捜索の時の協力を呼びかけている。</p>	

愛媛県 いい

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価) 運営推進会議では、年一回独自の評価表に基づき、ご家族と一緒にその項目に基づき、評価や意見をいただくようにしている。また、現在のケアやホームでの活動内容、利用状況を運営推進会議で報告・話し合いを行い、そこで得た意見をもとにサービスの向上に繋げる為、職員会等で話し合っている。</p> <p>(外部評価) 地域住民も運営推進会議に参加しやすいよう地域の公民館で開催している。会議は利用者や家族、町内会長、高齢者クラブ会長、町づくり協議会、民生委員、地域包括支援センター職員、市担当者等の参加を得て、同じ地域にある小規模多機能ホームと時間をずらして合同で開催し、参加者と活発な意見交換をしている。参加者から出された意見は、必ず職員間で検討しサービス向上に繋げている。また、会議に行事を併せて企画することで、家族の参加も多く得られる工夫をされており、要望や意見を聞く機会にもなっている。</p>	
5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 運営推進会議やホーム行事などの際、日時の案内をさせていただき参加の際には、直接に入居者様、職員と話をする機会を作っている。認知症サポーター養成講座を通じて、意見交換などを行っている。また、生活保護受給者に関しても、生活福祉課担当者と状況の連絡を密にとっている。</p> <p>(外部評価) 市担当者は運営推進会議に参加し、情報やアドバイスももらっている。日頃から気軽に電話等で質問や相談をすることができ、市や地域包括支援センターからの困難事例の相談に応じるなど、相互の協力関係を築いている。また、愛媛県警の「まもるくんの会社」や松山市認知症高齢者見守り・SOSネットワークに登録し協力をしている。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 研修や勉強会等を通じて、職員全員が身体拘束について正しく理解し、適切なケアに取り組んでいる。また、「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」以外の抑圧となるであろう行為についても十分注意し、支援している。</p> <p>(外部評価) 身体拘束のほか、精神的拘束をしないケアを週1回接遇カンファレンスで話し合い、日頃から職員に身体拘束ゼロの共通認識を図っている。利用者が一人で外出した場合に備えて、日頃から地域住民や警察との見守りや発見などの協力体制を築いているほか、職員間で徘徊訓練を実施している。日中玄関を開放しており自由に外出ができるため、外出しようとする利用者には職員が声をかけ、散歩に誘い気を紛らわしながら対応している。</p>	

愛媛県 いい

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 講義と演習・グループワークでの事例を基に、参加できない職員にも全員把握できるように資料を配布し説明し、職員同士で気づけるよう防止に努めている。また、1週間に1回接遇を見直す時間を設け、職員同士で見直し適切なケアができるよう努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 成年後見員制度の研修・実習時間を設け資料も配り理解できるよう行っている。個々でも自発的に学び支援できるように活用し努めている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時には本人様・家族様が納得いただけるよう説明を行い、疑問等の申し出がある場合は速やかに説明し対応を行い不安にならないよう努めている。しかし、職員は契約内容や規定への理解・把握は出来ていないので今後職員が把握できるよう努めていく。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) そうめん流しや夕涼み会などの行事では家族様にも参加の声かけを行い、家族様へ要望や意見を確認を行うよう努めている。家族様面会時やこまめに連絡を行い意見や思いを確認している。月に1回、利用者様会議を行い本人からの意見や要望を確認している。また、その時に出来ないことは今後に繋げられるよう努めている。	
			(外部評価) 事業所での行事や面会時に声をかけ、話しやすい信頼関係づくりを心がけ、率直な意見や要望を聞くよう努めている。事業所の満足評価の家族アンケートを実施し、ケアや運営に反映している。意見や苦情が出された場合には職員全員で話し合い、管理者や職員が適切に対応できる仕組みが整っている。	

愛媛県 いい

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<p>(自己評価) 第2木曜日に職員会を開いたり、6か月に1回人事考査を行い、意見の聴取に努めている。職員会には、経営者も参加し意見交換や話し合いやストレスマネジメントの研修などを行っている。また、意見等あるときは、直接管理者に意見を伝え、運営に反映できるように努めている。</p> <p>(外部評価) 管理者はできるだけ職員と個別に話せる時間をつくり意見を聞くよう努めている。職員から相談される場合もあり、管理者自身の経験を活かし分かりやすく伝えるように努力している。管理者に直接意見が言いづらい場合も考え、ユニットの責任者に相談することができる体制も整えている。職員から出された意見や要望を活かし、働きやすい職場づくりに努めている。また、この自己評価は職員全員で検討して作成し、業務等の振り返りにも繋がっている。</p>	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<p>(自己評価) 6か月に1回人事考査を行い、就業状態やケアに関して、自己評価と、代表者、管理者の評価を行い、三者面談を通じ、勤務状況や、職員の努力、これからの目標などを評価し、賞与や給料などに反映している。職員は各自で目標を作りそれを意識しながら実践できるよう努めている。</p>	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<p>(自己評価) 勉強会を行い、職員の意見を参考にして、ケアや業務に関してテーマを持って勉強ができる環境を作っている。外部研修の情報も提示し、希望の職員には外部研修への参加の支援も行っている。新職員には担当指導者がつき、介護業務のチェック表に基づき、段階的な職員育成に努めている。</p>	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	<p>(自己評価) 就労支援施設や託児所と職員を含め交流を行っている。毎年、相互研修に参加したりして、意見交換やサービスの向上に努めている。また、石井地区のグループホーム連絡会にも出席したり、行事ごとへも見学させていただき、他施設職員との交流を行いサービス向上に勤めている。</p>	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	<p>(自己評価) 接遇を重んじ、全職員が表情や精神面などの変化に気づけるよう研修で職員同士で演習し実践に生かせるよう努めている。事前の情報や暫定ケアプランなどにより、家族様に相談したりし本人様を知ることで小さな変化を見逃さないようにしている。</p>	

愛媛県 いい

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) ご家族の不安や要望を傾聴し、共感する事で信頼関係の構築に努めている。来所された際には、生活状態や医療面等の近況をお伝えし、何かあればその都度家族様と相談し決定している。	
17		○初期対応の見極めと支援サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 担当職員が中心となり、その方にあったサービスを職員間で話し合い、情報を共有している。利用相談時、すぐに入居ができないことを話した上で、必要性が高い方には、他の施設を紹介する等の対応をしている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) その人らしさと馴染みの空間を大切にし、趣味を継続することで、日々を楽しく過ごせるようにしている。また、したいこと・食べたいものの要望を取り入れ、共に作る(する)ことにより、関係づくりに努めている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 本人様と過ごす時間を大切にするため、イベント時など積極的に連絡し、参加していただいている。また、ご夫婦で過ごす時間も大切に、共に行き来できる環境を整えている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 今までの生活継続を大切に考え、必要であれば、家族様に協力していただき、関係が途切れないようにしている。家族様の協力も得て、知人の方がホームの方に訪問ができるように努めている。	
			(外部評価) 生活歴や馴染みの関係などを利用者や家族から聞き、把握している。日々の何気ない会話から、馴染みの場所を聞くこともあり、利用者の言葉から花見の時期には出身地のしだれ桜を見に行き、生家にも立ち寄ったこともある。また、近隣の利用者の場合は、日頃の散歩時などに馴染みの場所へ出かけるよう支援している。	

愛媛県 いい

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 他者との関わりが難しい方には、職員が間に入ったり、共通の話題を提供しコミュニケーションがうまくとれるように支援している。また、食事作りやレクリエーションを通して良い関係作りができるよう積極的に関わっている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 退居後も、ご自宅を訪れたり電話をする等、生活状態を確認し不安や悩み相談をおこなっている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) アセスメントシートやひもときシート等、その時の状況に合わせて、ツールを使用し、本人様や家族様の意向の把握に努めている。上記のものを参考に本人様を含めたカンファレンスを行い、ケアプランに反映できるように努めている。 (外部評価) 日常生活の中で利用者の思いを聞くよう努め、ひもときシート等に追記している。思いの把握が難しい利用者には、家族から情報を聞き、利用者本位のサービスを検討している。朝の申し送り時に、利用者本人にも参加してもらい「即日カンファレンス」を行い、本日できることや希望に沿った支援ができるよう話し合いをすることもある。利用者らしさを大切に「パーソン・センタード・ケア」の概念を基にして、考えるケアに取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) アセスメントシートを通じて、生活歴等の把握を行っている。また、本人様や家族様より直接話を聴くことにより把握につとめている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 9人の利用者様がどこで何をしているかをイメージしながら業務を行っている。また、特変状態があれば、連絡ノートに記載したり、申し送りを行い、職員間での情報共有に努めている。	

愛媛県 いい

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 職員に意見やアイデアを出してもらい話し合いをして、その内容をもとにケアプラン担当とケアマネが原案を作成し、本人様・家族様と話し合い介護計画を作成している。また、月末に担当中心に評価を行い、ケアに反映できるよう努めている。	
			(外部評価) 利用者や家族の思いや意向を聞き、介護計画を作成している。利用者毎の担当制を取ることで、利用者本位の介護計画になるよう留意している。モニタリングは担当職員や計画作成担当者が日誌等の記録を確認し、月末に職員全員で話し合い評価をしている。6か月に1回の介護計画の見直し時には利用者や家族にも参加してもらい、地域でその人らしく暮らしていくための介護計画となるよう努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 日々の様子や内容を記録に残し、本人様が話した言葉なども記入している。職員間でも情報を共有し、日々のケアに活かせるように努めている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 利用者様や家族様の希望を可能な限りおこなえるようにその時々に応じて、受診やマッサージなどのサービスを利用している。また、入居者会議、日々の会話を通し音楽療法の提供や町内行事の参加に努めている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 防災訓練や行事など、地域の方を招待し利用者様と交流をしていただけるようにしている。	

愛媛県 いい

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	<p>(自己評価) 主治医は利用者様に選んでもらっており、内科2医院、眼科 1医院、皮膚科1医院、歯科2医院、心療内科1医院に定期 的に往診していただいている。また、電話でも相談をおこ なっている。内容は医療ノートに記載し、職員が情報共有を おこなっている。</p> <p>(外部評価) 利用者の希望するかかりつけ医を継続して受診することがで きるが、複数の協力医が往診による健康管理や緊急時にも迅 速に対応してくれるため、協力医をかかりつけ医に変更する 利用者が多い。眼科や歯科、心療内科などの協力医の往診も ある。専門医の受診は家族の同行を基本としているが、必要 に応じて職員が同行し適切な医療が受けられるよう支援して いる。受診内容と健康状況は個別の医療ノートに記録し、職 員間で情報を共有している。</p>	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	<p>(自己評価) 2週に1回看護師の往診があり、状態を伝えている。また、2 4時間対応の訪問看護ステーションとも連携をとっている。 普段から利用者様の体調管理にも気をつけている。</p>	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	<p>(自己評価) 入退院時には病院との情報の共有を行い、スムーズに入退院 できるように支援している。また、退院してからの対応も細 かく聞き、退院後も安心して生活できるようにしている。</p>	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	<p>(自己評価) 今までと変わらない生活を継続できるよう支援している。入 居時に家族様に看取りケアの方針について話し同意書を書い てもらっている。利用者様の急変が見られた場合、主治医・ 家族様と話し合い、方針に沿ったケアができるよう職員間で 情報共有している。</p> <p>(外部評価) 「重度化した場合における対応に係る指針」を作成し、対応 できる内容を利用開始時に利用者や家族に説明し同意を得て いる。協力医や訪問看護ステーションと協力体制が整備され ており、段階に応じて医師等と話し合いを繰り返しながら利 用者や家族等の希望に沿った支援ができるよう努めている。 チーム体制での支援に取り組んでおり、他の利用者にも配慮 をしながら、利用者や家族が納得し安心して最期が迎えられ るような体制づくりをしている。また、職員は看取り介護な どの勉強会に参加し、質の向上に努めている。</p>	

愛媛県 いい

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 年に1回は、救命処置の実践指導を行い、それに出席が来ていない職員は消防署で行う講習に参加してもらっている。緊急マニュアルも作成しそれに沿って対応している。看取りの方は事前に家族様とも相談し、急変時の医療との連携等の確認を行いスムーズに対応できるようにしている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 避難訓練を定期的に行っている。消防署にも立会い指導をしていただいている。同事業所にも協力体制ができるように努めている。訓練後には反省会も開き、今後の見直しを行い全職員がいざという時、適切な行動ができるよう努めている。 (外部評価) 防災マニュアルを作成し、年2回地震や夜間の火災など様々な場面を想定した避難訓練を実施している。託児所の幼児と交流中に火災が発生したことを想定して避難訓練を実施することもある。運営推進会議で防災訓練などをテーマに取り上げて話し合い、訓練には近隣住民も参加するなど協力体制が築けている。会議の参加者から提案があり、1階のベランダからも非難しやすいよう段差解消のため踏み台を設置している。管理者は、職員が常に防災意識を持てるよう努めている。	災害発生時に備えて、事前の万全な対策を取れるよう必要な備蓄品等を確認し、用意することを期待したい。また、年2回の避難訓練のほかにも、利用者の安心安全な生活や職員の防災意識を高めるため、自主的な防災訓練を計画的に実施することを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 理念を念頭におき、全職員が個人の尊厳をそこなわないように声かけを行っている。また、週に1回は必ず接遇のカンファレンスを行い、個々で見直す時間をもうけている。それ以外の日も毎日、利用者様ひとりひとりのカンファレンスをしている。 (外部評価) 「ご本人のことを大切にしたケア（パーソン・センタード・ケア）」の概念を大切にし、職員全員で模索しながら考えるケアに取り組んでいる。法人内の勉強会を実施したり週1回接遇カンファレンスで話し合うなど、職員は理解して、利用者の誇りや自尊心を損ねない一人ひとりに合わせた声かけや対応をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 入浴時に服を選んでいただいたり、個人の買物時利用者様に欲しいものを選んでいただいている。本人が困っている時は、思いを聞き出すことも行い、できるだけ思いが叶うように努めている。	

愛媛県 いい

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 一人一人の生活リズムやその日の希望、体調に合わせてながら出来るだけ満足のいく充実した生活をして頂いている。また、日々のカンファレンスで利用者様のペースにあわせていけるよう評価・支援内容の見直しに努めている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 定期的な美容サービスの方が来て下さり、利用者様と相談しながら満足いけるよう理美容に努めるとともに外出や行事の時女性の方は、化粧、男性の方は、髭剃り等の支援を行っている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 利用者様のできる事を大切にし共に食事を作っている。誕生日・日々のメニューにも順番に、その方の食べたいものを作ったりしている。季節に応じ旬の物も取り入れ食事が楽しみになるように努めている。	
			(外部評価) 献立は健康栄養委員の職員が季節の旬の食材や利用者の好みを取り入れ、栄養バランスを考えて作成している。利用者一人ひとりが食事に関するこだわりや好みが違うため、職員全員で共有し対応できるようにしている。職員は利用者と同じ食卓を囲んで同じものを食べ、会話を楽しみながら和やかに食事をしている。誕生会には、利用者の好みの特別食を提供している。また、食事の準備や後片付けなど利用者のできることを手伝ってもらうことにより、利用者の自信や張り合い、喜びに繋がっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) メニューを組む段階から栄養バランスに注意して作成している。その方の病状に合わせて減塩や食事量の調整を行い必要に応じて食事量の低下の方には、水分・食事量のアドJUSTを行い水分量・食事量の増加に努めている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 一人一人に合えあせて口腔ケアを行っている。できる事を見守りながら仕上げ磨きの支援を行っている。必要な方には、歯科衛生士の訪問指導や口腔ケアを受けている。	

愛媛県 いい

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 排泄チェック表を活用し本人の排泄リズムの把握に努めその方に応じた声かけによりトイレでの排泄がスムーズに行くよう支援している。	
			(外部評価) 利用者一人ひとりの排泄チェックをしてリズムを把握し、誘導してトイレで排泄できるよう支援している。居室内で放尿するなど課題のある利用者には、職員全員で話し合い細やかに訪室して対応しているが、利用者の思いも大切にケアの見直しも検討している。他の利用者など周囲にも配慮しながら、排泄支援に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 水分量を把握し個々に応じた、ヨーグルト・牛乳などを取り入れ散歩・体操・腹部マッサージを行い予防に取り組んでいる。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) お風呂の楽しさを提供するために、毎月レモン湯・菊湯などで季節感を出し入浴を楽しんでもらっている。利用者様の好みの温度・時間などを把握し満足できる入浴支援に努めている。	
			(外部評価) 利用者の希望の時間帯などに応じて、毎日朝から夕方まで入浴支援をしている。中には早朝の朝風呂を楽しむ利用者もいる。入浴を嫌がる利用者には家族に協力してもらったり、ひもときシートを活用して声かけなどを工夫して、入浴したい気持ちになるよう見守りながら支援している。また、利用者の好みのシャンプーなどを使用したり、月1回季節のゆず湯などを楽しんだりしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 日中、身体的に休息が必要な時休息できる支援を取り入れている。安眠につなげるよう室温・クッション等を使用しその方に応じて安楽な体位で休めるよう支援に努めている。	

愛媛県 いい

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 薬の変更あれば医療ノート服薬チェック板にチェックし誤薬・服薬忘れ防止に努めている。調剤薬局の薬剤師と連携しており服薬の事で相談できる体制を整えている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) ケアプランに沿って1日の流れにその方に応じた支援を取り入れ利用者様の役割を生かせるように務めている。即日カンファを行っており、その方の楽しみごと等をその都度見直し支援に努めている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 欲しいものがある時、本人と一緒に買い物に出たり、本人の趣味活動が継続できるよう本屋・ウィンドウショッピングなどいける機会を作っている。散歩や屋外でのお茶会などを日々取り入れている。	
			(外部評価) 利用者の希望や季節の花見などを取り入れ外出計画を立て外出している。利用者の日常会話から希望を引き出し、散歩に出かけたりお茶を飲みに行ったりするなど、柔軟に個別での外出支援に対応するよう心がけている。他の事業所の利用者と一緒に県外などに桜を見に出かけることもある。また、ボランティアや家族の協力を得ながら外出することもあり、楽しんでいる利用者も多い。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 地域のパン屋と連携し、月に2回ホームで利用者様にパンを選んで頂いている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 年賀状など本人様に希望を聞き家族や友人との手紙のやり取りができるよう支援している。	

愛媛県 いい

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) リビングに季節の飾りつけや利用者様の作品を定期的に飾っている。1日に4回外気を取り込んだり・外の音・光・室温などに気をつけている。室内でも利用者様の不快をまねく音・食器を置く音などに配慮をしている。</p> <p>(外部評価) 居間兼食堂には窓から明るい日差しが差し込み、利用者は日中その場所で食事の下ごしらえを手伝ったり、畳コーナーでくつろぐなど自由に過ごすことができる。光触媒の空気清浄器を使用し、定期的に窓を開け外気を取り入れるなど、利用者が快適に過ごせるよう努めている。中庭があり、野菜づくりをしたり、いすに座ってお茶や会話を楽しんだりすることもできる。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) リビングに季節の飾り付けを定期的に行っている。中庭の植栽に季節感を出し、リビングからの風景と楽しんで頂いている。また、入居者様の状態に合わせて、テーブルや椅子の高さを調節し、家庭的な雰囲気の中で、ゆったりと過ごせる様に工夫している。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) リビングの席は自然と気の合う方同志座っていただき、利用者様間で、トラブルが起こりそうになった時は、職員が素早く中に入り関係性の修復に努めている。本人様の希望の応じて仏壇・タンス・三味線などなじみのある物を活かし居心地よく過ごせるよう工夫している。</p> <p>(外部評価) 居室の入り口には防災加工された暖簾が掛けられている。居室には使い慣れたタンスや机などが持ち込まれている。家族の写真等を飾ったり仏壇を持ち込んだりする利用者もおり、その人らしい生活が送りやすい空間となっている。中にはカラオケなど利用者の趣味の品物を持ち込む利用者もおり、一人ひとりに合った居心地よく過ごせるような空間づくりをしている。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) その人の「できる」や「わかる力」を尊重し助力する事で「自信」や「意欲」を保てる様支援している。入り口の御本人の写真、入居者用調理テーブル、リビングのテーブルの高さ、園芸用レイズベット等導入し、お一人お一人が自立して活動出来る様に配慮している。</p>	

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870104381
法人名	株式会社 ヨシケンコーポレーション
事業所名	グループホームいしい
所在地	〒791-1105 愛媛県松山市北井門3丁目14番28号
自己評価作成日	平成26年9月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 26 年 10 月 29 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

基本的には、日々の生活を大事にします。天候の良い日に、お買い物、散歩など、その方に合わせて外出もします。入浴は、ヨモギ湯、大根湯、菖蒲湯、など季節に応じた、お湯も楽しめます。知的障害者の就労支援施設と3か月に1回、託児所と2か月に1回、夕涼み会などのホームの行事に地域の方を呼び交流を行い、盆踊り大会、運動会など地域の行事の参加も行っています。園芸療法は、その方の昔から慣れ親しんだ野菜や植物を中心とした園芸を行い、計画、種まきから始まり、花や野菜の苗の植え付け、収穫物の調理などを一緒に行います。音楽療法は、音楽療法士と相談しながら、その方の好きな季節の歌や思い出の曲を歌いながらの運動を取り入れています。芸術の導入は、認知症により損傷した脳に、刺激を与えて進行を予防するのではなく、その方の意欲、気持ち、残存機能に、生活歴、趣味を勘案しながら働きかける事を大切にしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所では「ご本人のことを大切にケア(パーソン・センタード・ケア)」を大切に、職員全員で模索しながら考えるケアに取り組んでいる。事業所のパンフレットは職員間で話し合い、利用者や家族の視点に立って見やすく楽しめるものを作成している。会社の経営理念と介護保険理念に沿った事業所独自の理念も、職員間で話し合いながら数回変更しており、職員の行動指針と併せて理念を大切に考え実践している。職員一人ひとりが利用者本位のサービスが提供できるよう、お互いに原点に立ち返りながらケアに取り組めるように、「接遇カンファレンス、即日カンファレンス」という事業所独自の時間を設定し、ケアの向上に努めている。また、事業所は開設して10年を経過し地域との絆も深まってきており、複数の医療機関と往診や緊急時の協力体制を築き、利用者は安心して生活することができる。また、地域の「認知症の専門家」として、徘徊模擬訓練等に参加協力し助言をするなど、地域社会の貢献に繋がっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホームいいい

(ユニット名) 2階ユニット

記入者(管理者)

氏名 小椋 真吾

評価完了日

平成26年9月30日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 法人の理念や介護保険の理念を基に、具体的な理念を構築し職員全員が理念を確認し意識してサービスを実施している。事業所の理念を朝礼時に全員で唱和し、常に念頭におき全員が同じ気持ちで支援できるよう統一している。	
			(外部評価) 会社の経営理念と介護保険理念に沿った事業所独自の理念を作成しており、職員間で話し合いを繰り返しながら数回変更し、現在分かりやすいものとなっている。また、職員の行動指針を作成しており、理念と併せて振り返りながら実践している。また、新人研修で理念を説明している。職員はケアで悩むことがある場合は理念に立ち返り考えている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 普段の散歩、プチ美化運動、地域の行事（盆踊りや地方祭）運営推進会議や行事（夕涼み会、そうめん流し、防災訓練）を通じて地域の方々との関係作りを大切にしている。また、松山市石井・久谷地区地域密着型サービス連絡会を通じて、近隣の施設との交流も行っている。	
			(外部評価) 運動会や防災訓練などの地域行事に参加したり、事業所で開催する夕涼み会やそうめん流しなどに地域の協力があるなど、相互の交流が盛んに行なわれている。事業所で地域住民が参加できる催し物を開催する場合は、高校生の実習生やボランティアに声をかけたり、散歩時に利用者と一緒にチラシを配布し、多くの参加者が集まりやすいよう工夫している。託児所の幼児や近隣の楽器店の音楽療法士等の訪問を利用者は楽しみにしている。また、自治会などで行う徘徊模擬訓練には、「認知症の専門家」として助言することもあり、地域社会への貢献に繋がっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 北井門町の徘徊訓練を町内会と共に運営を行っている。また、管理者が中心に地域における認知症サポーター養成や事業所において介護福祉士養成実習やボランティア実習、中学校の職場体験実習等を積極的に受け入れ地域の方々への認知症への啓発・普及活動を行っている。	

愛媛県 いい

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価) 行事など、ご家族に参加していただけるよう、アンケート意見を取り入れ、気軽に立ち寄れるような工夫を行っている。過去の行事や訓練などでの反省を運営推進会議で話し合い、より良い行事や訓練にできるよう努めている。</p> <p>(外部評価) 地域住民も運営推進会議に参加しやすいよう地域の公民館で開催している。会議は利用者や家族、町内会長、高齢者クラブ会長、町づくり協議会、民生委員、地域包括支援センター職員、市担当者等の参加を得て、同じ地域にある小規模多機能ホームと時間をずらして合同で開催し、参加者と活発な意見交換をしている。参加者から出された意見は、必ず職員間で検討しサービス向上に繋げている。また、会議に行事を併せて企画することで、家族の参加も多く得られる工夫をしており、要望や意見を聞く機会にもなっている。</p>	
5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 地域の就労支援施設、託児所との交流を図り、市が主催する研修に参加し、意見交換や交流を深め、ホームでの実情やケアサービスの取組みを伝え協力関係を築いている。</p> <p>(外部評価) 市担当者は運営推進会議に参加し、情報やアドバイスももらっている。日頃から気軽に電話等で質問や相談をすることができ、市や地域包括支援センターからの困難事例の相談に応じるなど、相互の協力関係を築いている。また、愛媛県警の「まもるくんの会社」や松山市認知症高齢者見守り・SOSネットワークに登録し協力をしている。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) パーソンセンタードケアの理念や高齢者虐待防止教育システムを取り入れるなど知識の向上と認知症の方の気持ちに寄り添い、その方に合った支援を提供し不安をなくすようなケアを行っている。また、玄関は夜間を除き施錠せず、日常的にも身体拘束をしない介護に取り組んでいる。</p> <p>(外部評価) 身体拘束のほか、精神的拘束をしないケアを週1回接遇カンファレンスで話し合い、日頃から職員に身体拘束ゼロの共通認識を図っている。利用者が一人で外出した場合に備えて、日頃から地域住民や警察との見守りや発見などの協力体制を築いているほか、職員間で徘徊訓練を実施している。日中玄関を開放しており自由に外出ができるため、外出しようとする利用者には職員が声をかけ、散歩に誘い気を紛らわしながら対応している。</p>	

愛媛県 いい

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 不適切なケアの段階で職員同士でも気付かれる様防止に努めている。入浴の際には、全身チェックを行い、内出血などないかの確認をしている。月一回の社内勉強会で職員全体のレベルアップに努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 成年後見制度を理解する為、社内研修の実施や外部研修への参加を促している。管理者からの関係機関との連携の情報も職員で共有している。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時には、本人様やご家族様の不安を解消できるよう、納得していただけるまで説明を行っている。また、本人様の要望を出来る限り叶えられるよう、日々の会話を大切に、不安のない生活が送れるよう支援している。ご家族の要望も出来る限りかなえられるようにしている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 月一回は入居者会議を行い、行きたい場所、やりたい事や食べたいもの等の要望を聞き、その要望に応えられるよう反映している。また、ご家族の方への行事の参加も案内し、出来る限り参加して頂いている。参加時にはアンケートを行い、普段のケアや行事などの質の向上に努めている。	
			(外部評価) 事業所での行事や面会時に声をかけ、話しやすい信頼関係づくりを心がけ、率直な意見や要望を聞くよう努めている。事業所の満足評価の家族アンケートを実施し、ケアや運営に反映している。意見や苦情が出された場合には職員全員で話し合い、管理者や職員が適切に対応できる仕組みが整っている。	

愛媛県 いい

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<p>(自己評価) 毎月第二木曜日に職員会を開催し、各委員会からの発表や改善点など管理者や代表者へ報告と要望などが直接職員と意見交換できるよう時間を設けている。</p> <p>(外部評価) 管理者はできるだけ職員と個別に話せる時間をつくり意見を聞くよう努めている。職員から相談される場合もあり、管理者自身の経験を活かし分かりやすく伝えるように努力している。管理者に直接意見が言いづらい場合も考え、ユニットの責任者に相談することができる体制も整えている。職員から出された意見や要望を活かし、働きやすい職場づくりに努めている。また、この自己評価は職員全員で検討して作成し、業務等の振り返りにも繋がっている。</p>	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<p>(自己評価) 6か月に1回人事考査を行い、就業状態やケアに関して、自己評価と、代表者、管理者の評価を行い、三者面談を通じ、勤務状況や、職員の努力、これからの目標などを評価し、賞与や給料などに反映している。職員は各自で目標を作りそれを意識しながら実践できるよう努めている。</p>	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<p>(自己評価) 毎月第四木曜日に社内勉強会を実施し、職員から研修内容の希望をアンケートし、学びたいことを事前に調査し研修に活かしている。外部研修の案内をし研修費用を会社で負担することにより積極的に参加できるよう促している。</p>	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	<p>(自己評価) 地域交流を図り定期的な講習に参加し、サービスの向上に努めている。管理者は、中予介護福祉士会幹事、石井久谷地区連絡会会長なども兼務し、地域間の連携に努めている。同業者間の研究会にも参加し意見交換をしサービス向上に努めている。</p>	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	<p>(自己評価) 入居者一人一人の性格、こだわり、趣味等を把握したり、過去に使用していた品等を持参して馴染みの生活ができるよう支援している。入居前には自宅に伺いどのような生活をしてきたかを事前に調査することにより、信頼していただけるよう心がけている。</p>	

愛媛県 いい

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 入居の際には、本人様やご家族様の不安や要望を真にお聴きし、それに対しどのようなケアをおこなっていくか、話し合い、より良い関係作りを築いていけるよう努力している。	
17		○初期対応の見極めと支援サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 入居者様の各担当職員が中心となって本人様の想いや家族様の思いなどを傾聴し、それに応じたサービス提供を行っている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 生活の中で一緒に料理をしたり園芸や物作りをしたりすることで入居者様の趣味、楽しみを一緒に行う機会を持ち馴染みある関係作りに努めている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) イベントや外出時に、家族様へ連絡をし参加出来る時には、一緒に過ごしていけるよう時間を作っていたらいい。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 利用者様の故郷や以前に住んでいた場所、お墓参り等に出向いている。また、地域への散歩、行事を利用し、馴染みの方と会う機会を継続している。ご友人の方等が会いにこられると居室でお話して頂いている。	
			(外部評価) 生活歴や馴染みの関係などを利用者や家族から聞き、把握している。日々の何気ない会話から、馴染みの場所を聞くこともあり、利用者の言葉から花見の時期には出身地のしだれ桜を見に行き、生家にも立ち寄ったこともある。また、近隣の利用者の場合は、日頃の散歩時などに馴染みの場所へ出かけるよう支援している。	

愛媛県 いい

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 他の方との関係性が難しい方や会話が難しい方には職員が間に入りコミュニケーションが上手くできるよう支援している。食事は毎食リビングで食べるようにし、おやつやレクリエーションなどで関係作りの支援を行っている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 退居後もご自宅や病院を訪問したり、ホーム内でのイベントの声かけをしている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 独自のアセスメントシート、ひもときシート等を利用し要望や思いの把握に努めている。生活においては本人様に希望を聞いたり、入居者会議等毎月行い行事の説明、入居者様一人一人に説明をお聞きしている。 (外部評価) 日常生活の中で利用者の思いを聞くよう努め、ひもときシート等に追記している。思いの把握が難しい利用者には、家族から情報を聞き、利用者本位のサービスを検討している。朝の申し送り時に、利用者本人にも参加してもらい「即日カンファレンス」を行い、本日できることや希望に沿った支援ができるよう話し合いをすることもある。利用者らしさを大切にする「パーソン・センタード・ケア」の概念を基にして、考えるケアに取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) アセスメントシートを通じて生活歴などを把握しているが、本人様、家族様からも日常や面会時にお聞きするように家族様と協力して把握している。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 入居者様の状態、表情、仕草、態度、言葉を各職員が観察することで本人様のできる力、わかる力を把握し職員同士が声を掛け合い情報共有に努めている。	

愛媛県 いい

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) カンファレンスの内容を基にケアプランを作成。その後、家族様、本人様と話し合いを修正しながらケアプランを作成している。本人様の意見を一番に考え、可能な限り実行できるよう検討している。モニタリングは計画作成者だけでなく、担当職員も翌月モニタリングを行い把握に努めている	
			(外部評価) 利用者や家族の思いや意向を聞き、介護計画を作成している。利用者毎の担当制を取ることで、利用者本位の介護計画になるよう留意している。モニタリングは担当職員や計画作成担当者が日誌等の記録を確認し、月末に職員全員で話し合い評価をしている。6か月に1回の介護計画の見直し時には利用者や家族にも参加してもらい、地域でその人らしく暮らしていくための介護計画となるよう努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) その時にあった事や情報をプランに基づき具体的に記入・記録に残し日々の様子や気付きも記録している。本人様の言葉やご家族様の言葉を大事にし、記入するよう心がけている。職員間での伝達や情報の共有にも力を入れ日々のケアに活かせるよう努めている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 入居者様やご家族の要望・必要性に応じて訪問リハビリ、訪問看護、病院受診等のサービスを利用している。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 防災訓練では、地域の防災組織や近所の人に協力して頂いている。ホームの夕涼み会等の行事にも地域の方々に参加して頂いている。	

愛媛県 いい

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 主治医は、入居者様や家族様に選んで頂いている。複数の医 療機関と連携し、定期的な往診に加え電話相談や特変事には 随時往診もして頂いている。往診、受診結果は医療ノートに 記載し、職員間での情報の共有をしている (外部評価) 利用者の希望するかかりつけ医を継続して受診することがで きるが、複数の協力医が往診による健康管理や緊急時にも迅 速に対応してくれるため、協力医をかかりつけ医に変更する 利用者が多い。眼科や歯科、心療内科などの協力医の往診も ある。専門医の受診は家族の同行を基本としているが、必要 に応じて職員が同行し適切な医療が受けられるよう支援して いる。受診内容と健康状況は個別の医療ノートに記録し、職 員間で情報を共有している。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 二週間に一回訪問看護あり状態を伝えている。特変時には、 直ぐに病院へ連絡し指示を仰いでいる。入居者様の体調が優 れない時は、医師・看護師と連携しながら迅速な対応ができ るよう支援している。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院時は入居者様の身体的・心理的な情報を的確に伝え、入院 が円滑に行えるよう支援している。入院中も見舞いや電話で 情報交換し、今後のケアについてユニット内で話し合うなど 帰所後の支援についても話し合いを行なっている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 最期までその人らしい生活が送れるよう配慮し、急変が見ら れた場合は主治医、家族と今後のケアについて話し合いを行 なっている。また、統一したケアが出来るよう看取りマニ ュアルも取り入れている。 (外部評価) 「重度化した場合における対応に係る指針」を作成し、対応 できる内容を利用開始時に利用者や家族に説明し同意を得て いる。協力医や訪問看護ステーションと協力体制が整備され ており、段階に応じて医師等と話し合いを繰り返しながら利 用者や家族等の希望に沿った支援ができるよう努めている。 チーム体制での支援に取り組んでおり、他の利用者にも配慮 をしながら、利用者や家族が納得し安心して最期が迎えられ るような体制づくりをしている。また、職員は看取り介護な どの勉強会に参加し、質の向上に努めている。	

愛媛県 いい

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 急変や事故が起こった際、マニュアルに沿って対応している。応急処置を行なった場合や、病院を受診した場合は、記録に残し、今後の対応に生かしている。常に救急病院や受け入れ先を全職員が把握できる様に記している。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 半年に1回消防訓練を行い、全員が参加している。また、町内会、民生委員、地域住民にも協力してもらっている。訓練後は反省会を行ない、今後活かしている。職員は、毎年救急訓練にも参加している。 (外部評価) 防災マニュアルを作成し、年2回地震や夜間の火災など様々な場面を想定した避難訓練を実施している。託児所の幼児と交流中に火災が発生したことを想定して避難訓練を実施することもある。運営推進会議で防災訓練などをテーマに取り上げて話し合い、訓練には近隣住民も参加するなど協力体制が築けている。会議の参加者から提案があり、1階のベランダからも非難しやすいよう段差解消のため踏み台を設置している。管理者は、職員が常に防災意識を持てるよう努めている。	災害発生時に備えて、事前の万全な対策を取れるよう必要な備蓄品等を確認し、用意することを期待したい。また、年2回の避難訓練のほかにも、利用者の安心安全な生活や職員の防災意識を高めるため、自主的な防災訓練を計画的に実施することを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 1人になれる時間も大切にし、プライバシーにも配慮している。会話時や個人の自尊心を傷つけないよう、場合によっては居室で会話する時間を設けている。週1回は接遇カンファレンスを行い、職員全員が利用者様に対する言葉かけや対応を見直し、プライバシーを損ねないよう努めている。 (外部評価) 「ご本人のことを大切にしたケア（パーソン・センタード・ケア）」の概念を大切にし、職員全員で模索しながら考えるケアに取り組んでいる。法人内の勉強会を実施したり週1回接遇カンファレンスで話し合うなど、職員は理解して、利用者の誇りや自尊心を損ねない一人ひとりに合わせた声かけや対応をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 月に一回入居者会議を実施しており、そこで出た意見を多く取り入れ、出来るだけ希望に沿えるよう努めている。また、担当職員が日常生活の中から、1人ひとりの希望を聞き、随時対応できるようにしている。	

愛媛県 いい

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 1人、1人の生活リズムや、その日の希望、体調に合わせながら、ケアプランに沿って、出来るだけ満足のいく充実した生活をして頂いている。職員側の都合を優先するのではなく、利用者様のペースに合わせ、その人らしい生活を支援していけるよう努めている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 外出や、行事の際、計画の段階から身だしなみやお洒落をする時間を作っており、女性の方には化粧を、男性の方には髭剃りの剃り残しの介助など、支援している。また、身だしなみでは、利用者様に服を選んで頂きながら、季節に合った服を着ていただけるよう支援している。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 食事の一連の作業を利用者様と職員が一緒になって行っている。季節のものを取り入れたり、利用者様の希望を聞きながら、食事が楽しいものになるよう努めている。また、利用者様の好き嫌い表を作成し、食料、飲み物の好み等、職員間で共有している。食べられないものには、代替食を提供している。 (外部評価) 献立は健康栄養委員の職員が季節の旬の食材や利用者の好みを取り入れ、栄養バランスを考えて作成している。利用者一人ひとりが食事に関するこだわりや好みが違うため、職員全員で共有し対応できるようにしている。職員は利用者と同じ食卓を囲んで同じものを食べ、会話を楽しみながら和やかに食事をしている。誕生会には、利用者の好みの特別食を提供している。また、食事の準備や後片付けなど利用者のできることを手伝ってもらうことにより、利用者の自信や張り合い、喜びに繋がっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 体重増加や糖尿病のある方にはカロリー制限を行なっている。また、体重減少が著しく見られる方や、食事量の低下が見られる方には、補助食品などでカロリーの確保を行ったりしている。水分をあまり摂られない方には、水分摂取量をチェックし、1日の総摂取量を確認するよう努めている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後、職員が付き添い口腔ケアの見守り、磨き残しの介助を行なっている。また、歯科衛生士による訪問指導を随時受けている。義歯の方には、毎晩ディアクリンやポリデントで洗浄を行っている。利用者様には口腔ケアの必要性を説明し、理解していただけるよう努めている。	

愛媛県 いい

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 必要な方には、声かけにてトイレを促したり、排泄チェックを行い、サイクルを知り、その人に合った排泄ケアを提供している。介助が必要な方に対しても、拭いたり流したりは、ご自身でもらうよう声かけしている。	
			(外部評価) 利用者一人ひとりの排泄チェックをしてリズムを把握し、誘導してトイレで排泄できるよう支援している。居室内で放尿するなど課題のある利用者には、職員全員で話し合い細やかに訪室して対応しているが、利用者の思いも大切にケアの見直しも検討している。他の利用者など周囲にも配慮しながら、排泄支援に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 散歩や庭の手入れ、機能訓練等をし、身体を動かす機会を設ける。入浴時や衣類交換時等に、腹部の張りを確認し、浴槽内でのマッサージなどを施している。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 入浴の楽しさを提供するために、毎月の湯とし、サクラの湯、菖蒲の湯など季節感のある湯を楽しんでいただくようにしている。また、入浴剤などを利用し、入浴が楽しいものと思えるようにしている。入居者の希望に合わせ、入浴時間、回数の調整を行なっている。	
			(外部評価) 利用者の希望の時間帯などに応じて、毎日朝から夕方まで入浴支援をしている。中には早朝の朝風呂を楽しむ利用者もいる。入浴を嫌がる利用者には家族に協力してもらったり、ひもときシートを活用して声かけなどを工夫して、入浴したい気持ちになるよう見守りながら支援している。また、利用者の好みのシャンプーなどを使用したり、月1回季節のゆず湯などを楽しんだりしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 体操や散歩を行い、日光を浴びたりし、日中の活動を提供し、夜間の安眠につなげている。夜間眠れない方に対しては、水分やココア、ホットミルクなどを出したり、職員が話し相手となり、安眠の提供をしている。	

愛媛県 いい

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 薬の変更があれば医療ノート、申し送りノートを活用し、全職員が情報を共有している。服薬チェック板を使用し、誤薬、飲み忘れの防止に努めている。担当の薬剤師と連携し、薬に対する疑問や質問はその都度解決している。入居者様の不安にも直接説明してもらい解消している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 入居者様のこれまでの生活を大切に、過去の仕事、趣味などの情報を入手し、今できる事は何か？を考え、出来る範囲のことでしていただいている。また、ご家族様にも協力して頂き、情報をいただいたり、使用していたものを持って来ていただいたりし、その人らしさの演出を行なっている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 歩行練習、散歩、草引きや水やりなどをケアプランに組み込み、その人に合った時間や積極性を考慮し行なっている。入居者様が必要としているものを一緒に買いに行ったり、外出や外食など計画を立て実行している。 (外部評価) 利用者の希望や季節の花見などを取り入れ外出計画を立て外出している。利用者の日常会話から希望を引き出し、散歩に出かけたりお茶を飲みに行ったりするなど、柔軟に個別での外出支援に対応するよう心がけている。他の事業所の利用者と一緒に県外などに桜を見に出かけることもある。また、ボランティアや家族の協力を得ながら外出することもあり、楽しんでいる利用者も多い。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) ご家族様と相談し入居者様に小額の金銭管理をしていただいている。買い物などの際には、ご自分の財布から支払っていただいたり、自動販売機でジュースを購入したりしている。また、地域のパン屋と連携し、月二回の移動販売にて、入居者様に選んでいただき購入している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 時節のお便りを出していただいたり、ご家族様に電話をする支援を担当職員が個別に行っている。また、遠方のご家族様などには、定期的な電話でのやりとりをご依頼している。	

愛媛県 いい

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 季節感が分かるような飾り付けを四季に応じて利用者様と一緒にこなっている。天気予報や温度計、湿度計を利用し空調の調節を行なっている。できるだけ、自然の風を感じる事ができるように窓を開放している。利用者様の状況に合わせて椅子を変更したり、BGMの音量、光の調整などを行い快適な空間づくりを心がけている。</p> <p>(外部評価) 居間兼食堂には窓から明るい日差しが差し込み、利用者は日中その場所で食事の下ごしらえを手伝ったり、畳コーナーでくつろぐなど自由に過ごすことができる。光触媒の空気清浄器を使用し、定期的に窓を開け外気を取り入れるなど、利用者が快適に過ごせるよう努めている。中庭があり、野菜づくりをしたり、いすに座ってお茶や会話を楽しんだりすることもできる。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) 気の合った利用者様同士楽しく過ごせる様に自由に席を選んで座っていただいている。利用者様間のトラブルが起こりそうな時には、職員が直ちに仲に入り関係性の修復に努めている。畳みコーナーを開放し横になっていたいたり、座って団欒できる場として提供している。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 利用者様の馴染んだ家具やベッドを持ち込み、住まわれていた自宅に伺い、なるべく自宅に近い環境にし、不安の解消を心がけている。寝具も利用者様の希望にあわせたものを使用し、居心地を重視した生活を提供するよう努めている。</p> <p>(外部評価) 居室の入り口には防災加工された暖簾が掛けられている。居室には使い慣れたタンスや机などが持ち込まれている。家族の写真等を飾ったり仏壇を持ち込んだりする利用者もおり、その人らしい生活が送りやすい空間となっている。中にはカラオケなど利用者の趣味の品物を持ち込む利用者もおり、一人ひとりに合った居心地よく過ごせるような空間づくりをしている。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) 食事作りの提供。その人に合ったこと（野菜切り、皮むき、味付け、食器洗いなど）をしていただき、自分の役割、存在価値を見出している。洗濯物干しやたたみなども利用者様からしていただけるよう、普段から声かけし協力し合って生活している。</p>	